

令和3年度 東山開晴館 小中一貫教育構想図



《校訓》

克己・進取・礼節

《最高教育理念》

澄みゆく心、かがやく志の育成

《教育目的》

未来を創造し、たくましく生き抜く力の育成

《单年度で目指す姿》

- 課題意識を持ち、学び合い、協働して高め合う姿
- 折り合いをつけ、時と場に応じて正しく判断し、行動する姿
- 多様な価値観を認め、互いに尊重し合い、共に助け合う姿

I stステージ（1～4年）

- ◇やればできるという自信あふれる子ども
- ◇いけないことを「いけない！」といえる子ども
- ◇自分大好き、友だち大好き、なかよく遊ぶ子ども

II ndステージ（5～7年）

- ◇わからないことを克服しようと努力する子ども
- ◇下級生を思いやり見守る子ども
- ◇協力してやり遂げる子ども

III rdステージ（8・9年）

- ◇挑戦的に学ぶ姿の実現
- ◇卑怯を許さない姿の実現
- ◇つながりを喜びとする姿の実現

《目標達成のために徹底する取組》

1. 各種調査の結果や質問紙・アンケート・学校評価などの分析により児童生徒の変容を逐次確認、共有し、本校が抱える教育課題を明確にする。その上で、学習に遅れの見られる児童生徒が、自ら学ぶ喜びを感じ得できるよう、研究主任を中心として組織的に取り組む。また、児童生徒の状況に鑑み、適切に家庭学習が進められるよう手立てを施す。
2. 9年間の一貫した学びを実現するために、学びの連続を図るカリキュラムの構築に向けて、単元の系統を意識した授業づくりについて研究を進める。
3. より良い集団の形成を図る視点から、あらゆる教育場面において「思考⇒判断⇒行動」のプロセスを踏まえた活動を提供することにより、主体的かつ協働的な自治集団づくりを行う。
4. 自他を尊重し、主体的に判断するとともに、夢や目標に向かって、自分の道を切り拓いていくよう、自己指導力を高める。

5. 日々の観察や情報収集を通して子どもたちの困りを的確に把握し、積極的な支援を図るとともに、自主的な活動や自己実現を保障するために、児童生徒会活動の活性化を進める。
6. 児童生徒の生活のあり様を把握し、健康増進や「生命」を大切にする教育を推進する。
7. 「めざす子ども像」「めざす教職員像」「めざす学校像」を達成するために、報告・連絡・相談を密にする中で教職員の意識改革を図るとともに、ミドルリーダーを中心とした創造的、組織的な学校運営を推進する。
8. 「1in2out」を原則に、行事の精選をはじめとする教育活動の見直しを進め、義務教育学校ならではの強みを生かした教育を提供する。
9. 授業改善・働き方改革に資するよう、GIGA端末の活用実績を蓄積し、その有効活用についての研究を進める。

主体的・社会的な学びを大切にし、
「自己指導力」を育てる

～見通しをもっていきいきと学ぶ子どもの姿をめざして～

- (1) 9年間の学びの連続を図るカリキュラムの構築と「学びのスタイル」の確立
- (2) 「単元の系統性」と「つけたい力」を明確にし、単元構想を意識した見通しある授業づくり
- (3) 主体的な学びにつながる自学自習の習慣化と学力向上につながる家庭学習課題の検討（自ら学ぶ力）
- (4) スケジュール管理による自己の学びのカリマネ（自ら律する力）
- (5) 学び直しの時間を設定による全ての子どもの基礎学力を保障
- (6) 言語活動の充実とICT機器や学校図書館の利用
- (7) 地域の教材化と人材の活用のための学校運営協議会との連携

「おたより帳・スケジュール帳」の実践により、計画的に学習できる子ども達が増えている。しかし、学習に課題の見られる子どもの数の大きな減少には至らず、アンケート結果を見ても、目的に向かって学習をしたり、「学び直し(MR)」で達成感をもつたりすることは十分ではなかった。そこで、今年度は、年間・単元全体・一単位時間の「見通し」をもった指導を重視し、つけたい力を明確にすることで、子どもの主体的な学びへつながる授業実践を深める。さらに、昨年度に引き続き、基礎学力の定着のために、「おたより帳・スケジュール帳の活用」、前期課程、後期課程の指導者全員による「学び直し(MR)」を実践する。

知

よりよい社会の実現に貢献できる高い志を育てる

～人権の大切さを理解し、より良い人間関係と将来展望を切り拓く学びの場作り～

- (1) 9年間を見通した人権意識のカリキュラムの構築と人権学活の充実
- (2) 特別の教科道徳の指導の充実
- (3) 生き方探究（キャリア）教育の視点から特別活動を要としつつ各教科や東山探究の時間の充実と9年間を見通した取組の系統性の確立
- (4) 主体性と協働性に重きを置いた学級活動や行事の充実と主体的で目的が明確な体験活動の実施

各種調査の結果からは、児童生徒の基本的な生活習慣が整っているとは言えない状況にある。また、日ごろの姿とは異なり、自己有用感が変わらず低いという結果も見られる。開校4年目からスタートした児童生徒活動や縦割り活動も今年度で7年目を迎える。これまでの活動を振り返る中で、組織改編し新たに取組を精選しながら、児童生徒主体の活動がさらに進められるよう取り組んでいく。また、自分自身と向き合い、自問自答していくことでより学習が深まっていく道徳教育や人権教育、キャリア教育についても更なる充実を図るとともに、9年間の連続した系統的な学習が進められるように教育課程の見直しを進める。一昨年度より、1～9年のすべての学年において朝読書を取り組んできたが、今年度も引き続き取り組んでいく。

徳

健やかでたくましい心や体を育む活動作り

～基本的な生活習慣の確立と自己管理能力の育成～

- (1) 保健教育の充実
 - 保健教育プロジェクト……生活リズム調べと朝食キャンペーン等
 - 環境衛生日常点検……「歓喜の換気」等
- (2) 安全教育・防災教育の充実
 - 避難訓練（火災・地震・不審者対応に併せ、引き渡し訓練など）
 - 安全管理と危機察知能力の向上……校内安全の意識化
- (3) 食教育の充実
 - 食育の推進……食べ物を大切にし、残さず食べかる活動
 - 給食委員会……係活動の徹底・Wハッピーキャンペーン
 - 食の学習・家庭科との連携

「健やかな体」の取組については、概ね開校当時に想定した内容を児童生徒にも意識された中で定着させることができている。教職員が大幅に変わる中で、経年の見取りが必要な点についても共有しながら、引き続き現在の状況が確保されるよう部会での検討を行う。

体

- 授業での「学びのプロセス」を全学年で定着させる。
- 学び直し、スケジュール帳等の取組を定着させる
- 年間4回の公開授業研修会の実施、教科部会での研究を実施し、小中を越えた枠組みで授業改善に取り組む。

- 4年生以上で児童生徒会を運営し、早い段階から自治活動に参画させる。
- 道徳部会を中心として、教科書教材の指導について研修を深める。

- ステージ毎のスポーツフェスティバルやマラソン大会の実施により、体力向上を目指す。
- 「朝食キャンペーン」「交流給食」により食への意識を高める。
- 各種アンケートで児童生徒の課題を経年で把握する。